

年内収穫が可能な極早生エンバク「たちいぶき」

「たちいぶき」は多収な極早生品種であり、自給飼料増産につながる

背景・目的

- ・ 県内のエンバクの作付面積は約1,757haであり、秋冬飼料作物ではイタリアンライグラスに次ぐ作付面積
- ・ 晩夏，秋，春播き，いずれの作型でも栽培が可能であり，イタリアンライグラス等と混播することで自給飼料の増産が可能
- ・ 近年，耐倒伏性や収量性に優れた品種が育成されており，本県に適した優良品種の選定が必要

成果の内容

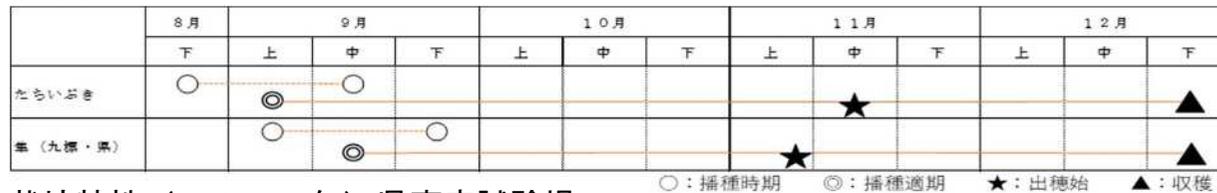
「たちいぶき」の特徴

県奨励品種「隼」と比較すると

- ・ 耐病性は同程度で強い
- ・ 生草収量が多収
- ・ 乾物収量も106%と多収
- ・ 分けつが多く，株が密集している



栽培体系



栽培特性 (R3~5年) 県畜産試験場

品種	発芽良否 ¹⁾	初期生育 ¹⁾	刈取時出穂程度 ¹⁾	草丈 (cm)	倒伏程度 ¹⁾	病虫害程度 ¹⁾	生草収量 (kg/10a)	乾物率 (%)	乾物収量 (kg/10a)	穂重割合 (%)	乾物収量の対標準 (%)
たちいぶき	8.0	6.9	4.1 ^b	130 ^b	5.0	1.0	4,937 ^a	17.8	874.8	10.8 ^b	106
隼 (九標・県) ³⁾	8.0	7.7	6.7 ^a	139 ^a	7.0	1.0	4,516 ^b	18.3	824.6	18.1 ^a	100

注1) 発芽良否・初期生育：1 (極不良) ~ 9 (極良)，出穂程度：1 (無または極少) ~ 9 (極多)

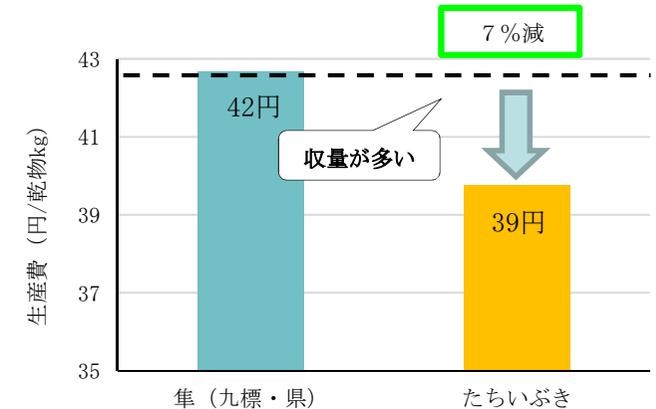
病虫害程度・倒伏程度：1 (無，極微) ~ 9 (甚)

2) 縦列異符号間に有意差あり (Tukey法，P<0.05)

3) 九州地区におけるエンバクの標準品種および県奨励品種

期待される効果

「たちいぶき」の生産費 多収による生産コストの低減



○普及対象・範囲

県内の肉用牛農家，乳用牛農家

<本情報の栽培条件等 (kg/10a)>

・施肥量：牛ふん主体堆肥2,000，苦土石灰100

化学肥料N:8，P₂O₅:15，K₂O:10

・播種量：7.5条間30cmの条播

鹿児島県農業開発総合センター畜産試験場
企画環境飼料部草地飼料研究室

日本草地畜産種子協会

(飼料作物等高能力新品種選定調査事業) (R06)